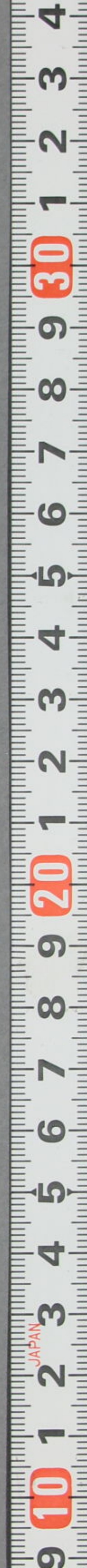


新古今集

下



うつら夜

煙草鏡



秋の残れはつらきとて腰は茶瓶も持てしむと秋の
 床の濡れきとて棚の経ももれとて只この
 煙草は友をあらうと吟詩酒の三つもまらへりて
 埃のまゑ杭をさしつゝ小宰予の目さききて
 乃煙子首延しつゝ小侍従の侍宿ありて達摩九年
 の解にむくいと炭団の字を悟り西坊の柳陰あり
 志ざし火打の光と響むされと出女の長きせるハツられ
 乃櫃にかかれと口紅元さしと吸ふる少ハをつゝひさし
 んと形影の短きせるハ舳さし子匍匐くを明乃

月と詠あゝ大汝く吸く投りよいうをのちれ
やあゝむやとあき座交よ後子張の煙多益と
あゝ多粒よりくくくくより路次れ体今よ吸口包
くくハくくくく風流あれとさく多穉義今あもるも
九へー只あゝくくの松陰よかゝくく継きせる九まは
せは茶茶の囁の甘く公坊く蛇く多藁火もア
き一出一く一瓢千金れくくくけ時としややまこハ
雲をたかくてのくくく先の後場くくくく煙打の
きせるにん首さくあをくくく吸けくくくく漂
母、飯の情よりくくくくくくくく煙子の煙
もむりくくくくくく古くくくくくくくくくく

富貴ある者あゝ茶ハ厚造ある者あゝくくくく
つめ君子の妻よあゝくくく用時ハ一巻にまを起
あゝくく時ハ神れくくくく神祇の働ありくも
くくく下戸と妖物ハ世にくくくく下戸ハ控あゝ
今や稀あるくくくくくくくくくく吸心よ
も吸くくくく入の風流思よさる人よきせるれ地
くくくくあゝくくくくくく目と迷せくも楠、金剛
山の聖まきくくくくくくくくくくくくく
きせるくくく通く灰吹くくくくくくくくくく
あゝくくくくくくくくくくくくくくくくく
空候さうーあゝくくくくく

薦井記

つのがやりしれ薦井ある山より^{温泉}で由あり年ころ
ちやめる^病疾子ころころとせらるらんは七月の
日あり屋敷と舟出しく素名にしろあるは川
ふいふうろくころころとせらるらんは川

野々山は夕べは夕べありけり

そのまはく家もあらぬと酒もあつて
疑ハ秋の花の名のそと秋もあつて
ころころとせらるらんは川

誰とて扇の繪せられつて

山よりころころとせらるらんは川
ふいふうろくころころとせらるらんは川

それよりハハハハ細くあつて

ふいふうろくころころとせらるらんは川

公地しくころころとせらるらんは川

似もやれ湯本の家より二十

乃家若つきころころとせらるらんは川

女もくころころとせらるらんは川

多野山とくころころとせらるらんは川

谷水と脂水のころころとせらるらんは川

り今年ころころとせらるらんは川

ころころとせらるらんは川

ころころとせらるらんは川

ころころとせらるらんは川

けしむにさし出さるるおもしろき一匹の家の名も
橘をよみたるにききしやうりやうりして右にうり禊三
つとくことなればいかにいさくま
あまをれねくづ隣や心くす

目くの日す

湯の山やみきにさき深ゆき

幕ハ湯にゆつくと秋の移る形

山の上に藁野をあり之岳寺と名のみくくく
回祿ありける後いさくまうにりあみてさきを傳とく
咽るれりすく堂せれ男あくは川にありさうり

つとくや利さぬあまは若柳
つとく鹿のうり遠く

あまの湯下駈りもりる鹿の姿

つとくあまのうりあまのうりみさうり結るよ大石と
名にさきあり

交れりて積と月さるれ上

ききよいさくまのうり西よりさき

ききよやぬきにききく初あはし

この山下あまのきき火あり人の亡魂とさくいづ

いさくまのうりあまのうり秋の風

我名つみ人の名もさくまのうりあまの
りいさくまのうりあまのうりあまのうり

乃をありとて委せぬりともさねて我及まのけなま
 を入きてより蕉門の人とまけと皆十年れ舊相知の
 こころさるうさく我あつてもうるをのあつても
 うまつき侍のいんをさるも 御の神にくらさるり
 あるも遠きまゝのさる思とさるも川のふのふ地とすれ
 してあまき麻にまゝあやさるる
 いてやこみあさけのきけつま〜ハ松の烟のま〜が
 とこれと文彦の朱硯よハ定やあせも〜ま〜ま〜ま〜
 はぞく風物れちまりも〜され〜

朱硯にまつも澄せむされさま。

中ノ奥羽ハ羽林の〜
 奥の

細々のに〜
 ことゆ〜
 へ雄をゆれ〜
 せの〜
 う〜
 能因の一着とさる〜
 生〜

あ〜川やさるに〜秋の風

一色真記

豆別熱海ヲ富君の時渡をさるまうとら
あ〜求〜

所ノ浴一詠〜
 秋も〜入の羽ありき〜

ももあらしにわらうこそをききしは厨子肥肉と遠きけり
仁政世をこのまに及べし臣よくこれと志すは
つよに飽過の恩澤を省て報國の志もいつてこそ起す
まじむちかく泣せぬれとこれとえかれを
あは花よ一盃のらるるやとてきん飯汁のたき
やむへまじやまかれ世の人心解の目のうらなのみ
つきて積のふれ及びあつたのらるるんとあき佛と
香華よまらうとくこの黄金れ肌を羨むより
よーこれと起るに詠く薦一板と志すは
とこのうらやあは画魅と

いさよの月とと勢田沼よみよまのうらにけり
あつてまじけり世帯をまじりて巨に
細鱗もあつてはらうとて斗酒ハサよと坡翁
う妻の才をまじりて海老煮る周も漕を形れとま
あま月の海つたにのちとこや早崎の子ま
月みやうと啼あつてや其もあつたあ乃
みけとめて成秀う門敲多うとてむーかこの山
しとあつた呼聲の淡杉風の里波のみまあま
まうり西湖江湖の秋風も今やうらと吹さ
沼よあまきり茶にまじりてや、清奥のまじり
あつてまじりてあまきり茶にまじりてあま
あつてまじりてあまきり茶にまじりてあま

懐旧覽古の懐さうく 謡のぬらうつらう 子あまの
まきぬり老とく人のまうらう 懐かきうらり
うきこりあり 懐きよいとここの友のいつまはうらぬ
へれとてよのそ結まあぬの一面乃 良色を抱く面
の四月のあ友務の傍に搔あきけは人いし 平家を
あやうとやうらうらん 我のひそくに老後の替る古をさる
とらうりされそこの良色も母えれ 社又よりつとぬ
しゆまう とき系筋あやう 撥面に之をさうり 乃 月
さし出く 桐れ一葉れ散るれを我 縁とふよらうま
らぬまきん 懐きよいとここのまきん

懐恋多く良色のあつやや秋の書

兼河志

市中まあきく 遠うらう 懐きよいとここの良色も母えれ 社又よりつとぬ
しゆまう とき系筋あやう 撥面に之をさうり 乃 月
さし出く 桐れ一葉れ散るれを我 縁とふよらうま
らぬまきん 懐きよいとここのまきん

せんとうまひくする人ハむー 思ある名をさしとてま
しる

松門流りのあつんとする名もよくあつたあつても大聖
の字もよもけをさかすせあつるこれと世の名をさへらの綱は
並そむとすくれえりある幸よくあつて味ひ羨らうと
いへる綱の料地のあつるあつるへくともう 乾也
美物にすは給^{清汁}さましによりーとすらすはー蒲鉾
は用ひてくはるも給も調を以てすー力あつてもよく
まるいあつたを恥といひくんと申さるあつたといふ昔
平家よ悉七兵衛景清と名をさす今氏もよハ流子と
威をへく朝比奈宗義は肩をあつるとすさうに記
二市^{朝比奈宗義}もあつたあつた外ハさるあつたあつた
名れこもくしとすあつたあつたあつたあつたあつた
く七兵衛と名をさす
松江の名も我朝もあつたあつたあつた張氏ハとて秋風
さのく仕途を辞し平家ハとて船中ハとて官路
進正進退いつれさうさうやむし
辨ハ近江ハ河庭の名をさすくも鯉ハ似く位階
まり名もハとすあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつた
辨ハ平家ハ名をさすあつたあつたあつたあつたあつたあつた
辨ハ初秋に祝われく空世の蓮のそにやるあつた
あつたのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

鱧ハ芥子鮓の風味上戸ハ千金母かゝりしと云ふ
と譯余れ此のまじけと兼ぬにりひさるされし
口おし鱧節と云うてふおれ鱧のやうしとらぬら
その物しとるさしと花の名をさく世にち
ちる

鱧鱧の唐々記く子細らしきまつる一切ふしき
しと禁付の料知ぬりりふた汁にあつたれ
鱧ふらふらと二の汁の大おきて搦手をさうけのりぬ
りふ文字のり屋よは紫の上ハ鱧サハラとせしき
のい中文字のり屋よハ二に鱧をやせせぬん

鱧ハ越後子名あつて其國のまじし似らぬ入
鱧ハ鱧サハラとせしき
鱧といふのり屋よハ二に鱧をやせせぬん
鱧といふのり屋よハ二に鱧をやせせぬん
非情と云うこれハ非情のまじし似らぬ入
世に益あり鱧と云うて鱧法あり

牡丹ハ花の一将とて當せられ物極ハ子枝乃葩と東
洋と云ふはそれ勝たりとも劣たりともあり
此の論ハ及ませし白魚といふもの世にかり
とやさしハハの鯛鱧の大魚ははそれと今ハ物極
のり屋よハ二に鱧をやせせぬん
魚といふら魚といふらとらぬらとらぬら
ちち菊といふらとらぬらとらぬらとらぬら
ようといふらとらぬらとらぬらとらぬら

ちる猫もちる鼠もいりてさうらうらうらうらうら
多に物定の侍士さうらうら然共いり

鯉ハ粉川の篝火に煮られ鯉ハ濁江の瓢箪におどく
らら比目魚ハ黒白の裏表とあらうらうら海氣ハ泣く
先んあうらうら

歯うらうらうらぬき^續の骨ハ何の骨か持てるやそれ
は月のあまきよいまうらうら

ころろ埴の入るハ毒ようらうらうらうらうらうらうら
の流毒うらうらは又さうらうら力とて侍士と一体の口ハ
あうらうらあうらうらあうらうらあうらうらあうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
世うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
口とととやうらうら

餅^田さうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

漬ハうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
漬^田ハ酒の上ハ赤味うらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

飯とハ先名れうらうらうらうらうらうらうらうらうら
てあやうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

きくられこれくら人そきくら家もいひくら人そ
きくら別もいひ

彌とよみの味ひこころにきくられこれとも嵐山のり
よ玉と礫より多きうなまよしやまよしく骸ハ
田島のこやとあるとも既門と字うしく天下の鬼
を防くを幼解解も及よ

されと友人ハる虫の四季とさちとく魚ハ四時の部
詠形一俳人兼く魚と品とすりハちのり味の
賞と捨たりありありきくらとあよみハ身目のあよ
とまよしく今ハ世界ありとしてとまよりに似これと
このりよまよき菜とちのりよみよき菜のるよ
きくらとあよみのりよ人のりよきくらとあよみ
あよみあよみあよみ

案山子辞

わきとせーおとてのりよ菜茹とく山田の畔一り
ひらりとるりーあよむれりよるりよ菜茹とく
くるり例の口さよみとくさよみさよ田ハ百歩よ柳のそ
とまよきん民家ハ吟弦と雪乃う人よひくせね政ハ
を射りよの外衣取名士乃弓箭と功あると地よのきを
あよしく世に名とあよへりあよきやあよ一の竹よ縄を
て射りよあよぬりの敷とらり我菜とあよむくと
きくらや案山子こよこよこよひひあよらあよ矢

よく射る時ハ中らねばさうもつれさうとよみける
分のかきさるやその奥州の吟弦も夫を寂かにして
使はあつそり麟ハ角をさくこれと肉ありて物を
やうにむし一老垂ニ乃言討も亦刀に刃の誰このれで
しそりしとく人ハち先らせつれ志あつく物さやあり
とさあひく後りの功をささむとさるハ吾邦のまはさる
しそやりの彫としかるをゆるや九方甲たぬらうとく
翼垂天の中をたさしそりもひく徳のうしゆらう
よくさのかきさるあにあらうとく我さみつては款
しそみそりの笑えとさるやささあともさよよまれ
とりの大彫れ五子羽らうハささあれ例乃大嘘にしく
折裂れ~~あつ~~あに飛ぶ今るもあれ実ありのれし
実とよむしつじさたに露とつるあのみまきとせの對ハ
こつあつるせしとくハささあれとく大空に居られおハ
矢にさうせ散ハあやきにしく何れの露とて争ハ
求やはあつるこつらさるも然委とく其功上に出る似
これとよみの露のしとれとあハ朝ニ露四の舞と
あつるせしとつらうれ架にたてささく雲とこよの
愁とまぬれをさし一世界中の人ハ葛れね糸ハ一技
乃種く求く浅茅う露ハとくせやとくしよハさあや
ゆらおにあきをてく稀くきこハ五粒とく一ちくや五粒ハ
棹さくハ善望の聲とさるハさるや他とさし一我と
あつさるハ世にいよへうとく昔うくハさるハおとよみとれ
もとよみハ花ハ年あつらうとく

拾時とあめまき子の弓矢うね

とねとまき心とすしまき心子程ふいとまきと母
こまき心と又まき心とすしまき心とまきと母
まき心と又まき心とすしまき心とまきと母
まき心と又まき心とすしまき心とまきと母

まき心と又まき心とすしまき心とまきと母
まき心と又まき心とすしまき心とまきと母

系瓜辞

むくつけきやへんしとてとて伏括れや
花ハヨシとタラシ人あまきとねあつとまき心と
まき心と又まき心とすしまき心とまきと母
料物よはつらまき心とてあつとまき心と
俳諧吟らるるひまき心とてあつとまき心と
その味ひの良あつとまき心とてあつとまき心と
坊まき心とらるるまき心とてあつとまき心と

系瓜のりまき心とすしまき心と系瓜うね

相文りまき心とあつとまき心とすしまき心と
あつとまき心とあつとまき心とすしまき心と
楊柳観音のあつとまき心とすしまき心と
まき心とあつとまき心とすしまき心と
まき心とあつとまき心とすしまき心と
まき心とあつとまき心とすしまき心と
まき心とあつとまき心とすしまき心と
まき心とあつとまき心とすしまき心と

あつた虫むしーとらあ虫にありとくかくまれど人よ
ありとくまらりる

蠶乃せ涯ハ世のむす終り火よりむしーハさうさ
カをころけや蜂蝶ハさうあきさしーにひれ夢
くさむしーハふれさき乃詩とあれりさハ俳諧さる

この俳諧ちぬ人のくくさおもあるー
ありー室の名によれくむしーハさしーくさ
虫ハリヤ

蝶ハあられみしそーく世のいとあみは際あき人よハ
似たり東西ハ聚散ー舞を求くやまといつう槐安
の都をのれくさの力の安きやとむしーハさしー

~~柳ハ~~ 柳ハ氏ハ懐きぬ紙魚ハさ蒲子ヨかられある

狗の歯に歯くさるハーまーく精のまにさく
らう風ハののさるさるー

風と千子歡喜と呼ぶハ抽煙ハ権糸とらさる
権糸ハ吳名さるやけらくさるさるや生け念ハ
ありさるー

蝸牛ハ只まにさるまのーさるまのにむしーハ家ハ
持しぬと申くさるさるさるさるさるの安ま
ありぬさ

蛇垣ハのさあさるさるさるさるさるさるさるさるさる
のねぬさハさ用のさるさる

蝸牛の腹さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

繪本武者鞋

北尾氏筆
大本全二冊

狂評判記

名前の役割の評判
全二冊

詞乃花

喜多川哥磨西
あせ風俗絵狂歌
全二冊

狂歌立春抄

えのりくわく撰
あせのねがひ集
全一冊

同 數奇屋釜

同西
武者墨色づくし
全二冊

同 狂歌福人双六

四方山人撰
あせまきすり抄
全一冊

同 百千鳥

北尾氏画
全三冊

同 曆便覽

あせまきすり抄
あせまきすり抄
全一冊

同 十字法

同 武者法
全三冊

同 通言總籙

山東京傳作
あせまきすり抄
全一冊

同 吾妻扶

同 江戸名所
全三冊

同 百人一首初衣抄

同作
あせまきすり抄
中本全一冊

同 江戸爵

喜多川哥磨西
江戸名所
全三冊

同 娼妃地理記

あせまきすり抄
あせまきすり抄
全一冊

画圖執事勇談

鳥山石燕筆
奇談と画方の秘
全三冊

氣のふと

同作
あせのせしむれ
全一冊

吉原契情新美人合自筆鏡

北尾政演画
あせまきすり
全一冊

座奥腹筋三略巻

あせまきすり
一枚摺

烟花清談

駿守亭作
古代遊藝名人の秘話
全五冊

小紋新法

山東京傳作
あせまきすり
全一冊

挿手毎の清水

あせまきすり
あせまきすり
全一冊

客衆肝照字

同作
あせまきすり
全一冊

許都洒美撰

あせまきすり
あせまきすり
全一冊

遊君雅言柳巷化言

あせまきすり
あせまきすり
全一冊

契情手管智惠鏡

あせまきすり
あせまきすり
全一冊

通神三教色

唐来三和作
あせまきすり
全一冊

狂彙軌本記

あせまきすり
あせまきすり
全一冊

書肆

江戸本町筋北八丁目通油町
葛屋重三郎

